

# 漁村に息づく終着駅 外川駅

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第054号
名称（型式等）	銚子電気鉄道 外川 駅
所在地	銚子市外川 2-10636
設立(竣工)年	大正 12（1923）年

## 選定理由

銚子電気鉄道外川駅は、同鉄道の終着駅です。銚子電気鉄道の前身である銚子鉄道により大正 12（1923）年に開業しました。駅舎は現在も開業時に建てられた木造平屋建てのものを使用していますが、瓦葺きの屋根はトタン葺きに、また壁の羽目板の一部はトタン板で補修、出入口や窓もアルミサッシ化されるなど、長年の経年劣化に伴う改修・補修が一部になされています。しかし、建物の内部には建設当時の出札窓口などが残っており、木製のベンチが並び白熱電球が点灯する駅舎には往時の様子が感じられます。平成 2（1990）年に経営が他社に移った際、会社の方針から改装される計画がありましたが、経済状況の変化から改装が中断され、当時の面影を残したまま現在に至っています。

また、この駅は万治元（1658）年、紀州からの移住者である崎山次郎右衛門が外川漁港を築港した際、計画的に碁盤の目に作った街並みの入口に位置しています。外川の街並みは、当時「外川千軒大繁盛」と言われ、漁港ができたことにより漁師が住み着き、さらに豊漁により街が栄えた面影を見ることができます。



駅舎全景



ホームの構造



改札付近の様子



待合室の景観

協力：銚子電気鉄道株式会社

参考資料：「岬へ行く電車-銚子電気鉄道 77 年のあゆみ-」 白土貞夫 著 2001

「千葉県の産業・交通遺跡」 千葉県教育委員会 1998 ほか